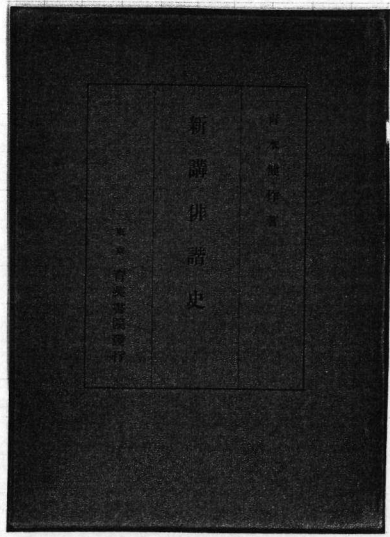


青木健作 あきぎ たけさく 小説家。明治十六年十一月二十七日山口縣生れ、昭和二十九年十一月十六日歿（八二—一九六）。舊姓青木、本姓井本。號凡、兀山、兀山人、歸哉。明治四十一年東京帝國大學文科大學哲學科卒。千葉縣成田中學校教員、のち法政大學教授、同大圖書館館長・龍樂研究所所長歴任。凡とらの雜誌『帝國文學』、『ホトトギス』、『讀賣新聞』等の小説を發表。また俳句を能くした。國文學者井本農一は長男。

著書『小説』（大正二年二月十日春陽堂「現代文藝叢書」）、『若き教師の惱み』（大正八年十一月二十一日大祐社）、『青木健作短篇集』（昭和二年十月十五日ホエチカ社、春陽堂）、『向上會小史』（本名、萩原大平治編、昭和五年六月二日全國私立中等學校教員「向下俱樂部」）、『玫瑰の花・第六』（合著、昭和八年二月一日玫瑰會編輯）、『新講談語史』（昭和十年十月十五日岩波書店、白馬書房發賣）等。

文獻、萩原伸一著『青木健作初期作品の世界』（平成四年一月二十一日岩波書店）等。



新講談語史